

資料 授業の計画、実践、分析等の記入表例（参考）

学習システム研究会等で 1967 年～1980 年頃に使われていた授業の計画、案、分析などの記入表を資料として示す。

これらの資料は各分野で説明してあるため、利用にあたって便利なように主な資料をまとめた。

これらの表・データは、1967～1980 年の資料であるため、現在とは違った表現もあり、参考として利用されたい。

1. 学習内容行動目標細目表

学習内容と行動目標のクロス表が作られていた。

クロス点には、

○○（学習内容）を△△（行動）・・・する。

学習行動目標の内容などを記入またはクロス点に○印を記入していた。

（計画）学習内容・行動目標の細目表 単元名 _____ 年 月 日

内容	行動													

（参考）Bloom, Benjamin Samuel, Hastings, J. Thomas (John Thomas) , Madaus, George F. 著；梶田叡一，渋谷憲一，藤田恵璽訳．教育評価法ハンドブック：教科学習の形成的評価と総括的評価．第一法規，1973（Bloom, Benjamin Samuel・Hastings, J. Thomas (John Thomas) ・Madaus, George F. . Handbook on formative and summative evaluation of student learning. McGraw-Hill, 1971）

（注）学習指導計画表の最初に使われていた。学習システム研究会の初期には、よく用いられていた。

また、形成的評価を考える（検討）とき、参考にされていた。

（注）教科の先生方が共同で授業案（学習指導計画書）作りによく用いられていた。

2. 学習指導計画、プロセス表（学びの順序）

単元の学習の順序の検討によく用いられていた。とくに、各教科の教員が共同で学習指導計画書や学習プリント、発問（各分野での）、問題（形成的評価用）、教材作りなどの基礎資料として用いられていた。

また、各教科の教育実践研究グループでそれぞれの教科に適した表現方法（表も含め）が利用されていた。

学習のステップ	学習内容行動				
	←1つの分節の内容が記入され、学習内容・行動の該当項目に○印をつける。				

3. 授業計画細目表（1時間、単元用）岩崎潔

今日、この授業で何ができ、どのような力がつくのか、事前と事後で教師が分析・評価するときによく使われていた。とくに、教育実習生の「手引き」の計画・評価でも使われていた。この授業計画細目表は、岩崎潔先生が岐阜大学附属中学校の主事をされていたときに作られた。

授業計画細目表(1時間・単元用) 年(月 日) 作成者

	1 学習目標	2 学習活動	3 教授活動	4 教材・資料・機器	5 評価	6 処方
ア わかる	ア1	ア2	ア3	ア4	ア5	ア6
イ できる	イ1	イ2	イ3	イ4	イ5	イ6
ウ 考え 方	ウ1	ウ2	ウ3	ウ4	ウ5	ウ6
エ 見 方	エ1	エ2	エ3	エ4	エ5	エ6
オ 学 習 力	オ1	オ2	オ3	オ4	オ5	オ6

[学習内容・行動]

(教材の資料番号記入) (評価問題等の資料番号記入) (処方学習の資料番号記入)

岩崎 潔

この表は、授業の前と後で利用されていた。授業後は学習指導の反省として役立っていた。

4. 授業案（学習指導計画）

授業案の書き方は、教科、地方で特徴のあるいろいろな方法が用いられていた。当時の学習システムの研究会では、授業分析との対応ができるように学習フローチャートの利用がされていた。略案から分節の終わりの評価のための発問の内容まで書かれた授業案が作られていた。

小5 理科 電流と発熱 NO. 4 その2

The flowchart on the left shows a sequence of activities: ④ 準備 (Preparation), ① 学習 (Learning), ② 実験 (Experiment), ③ 学習 (Learning), ④ 実験結果 (Experiment Results), ⑤ 学習 (Learning), ⑥ 結果から課題 (Lesson from Results), ⑦ 学習 (Learning), ⑧ 結果から課題 (Lesson from Results), ⑨ 学習 (Learning), ⑩ 結果 (Results). It includes a box for '40分下 各グループの結果' (40 min, results of each group).

前段階	学習内容	学習行動	事項
電流	電流	電流	準備するもの 電源装置、ビーム管、回路板(太い線は太い線) 必要に応じて電流計
電流	電流	電流	実験結果 実験結果
電流	電流	電流	回路図
電流	電流	電流	思考(実践 的思考)
電流	電流	電流	知識(利用)

(注) フローチャート例（学習システム研究会のフローチャート例であり、統一化すべきであった。）



フローチャートの中には、学習順序の番号や説明、話し合い、実験・実習などの活動や活動内容が簡単に表示されていた。

(注) 教科等で共同の学習指導計画書を作るときは、参加する先生全員がこれまでの自分の経験をもとに指導案を書いていた。

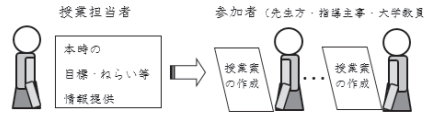
5. 授業実践関係

授業実践の記録は、図のように参加者も各自授業案を作り、授業者の授業案と併せて使い、授業実践を観察した。各授業案との違い、良い点、改善点、さらに参加者が自分の指導技術、方法、指導力などに役立てるよう授業案の用紙や授業観察(表)用紙に記入していた。

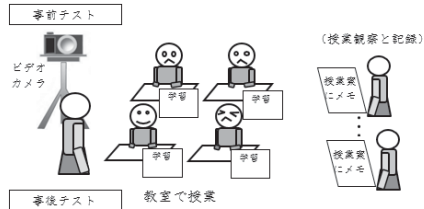
現在は付箋に記入し、授業案または授業観察(表)などに貼り付けると良い。(付箋の色で記入内容を区別することもできる。)

(注) 高等学校等は、授業観察が困難なため、授業のビデオ映像や学習反応曲線を見て研究会が行われていた。

(ア) 参加者も1人ひとりが授業案を作ります！

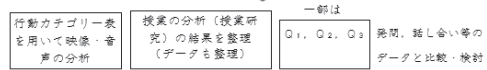
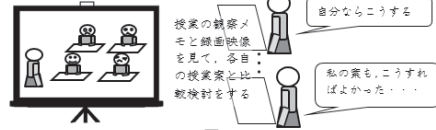


(イ) 授業を記録します。



(ウ) 録画映像を見る(授業研究)

事前・事後のテスト、学習プリント(記入) (共同開発者も主役、全員の授業案を配布) 反応曲線など参考



授業観察業 (授業中に記入)

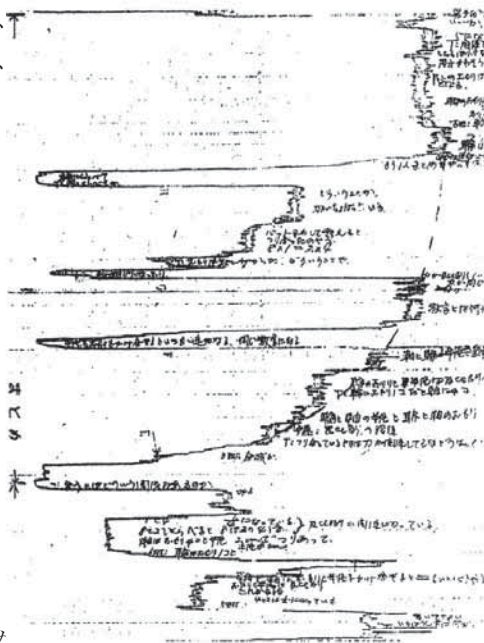
授業のステップ	授業者の指導の 良い点・問題点	参加者の授業案の 良い点・問題点	本時の改善点 (自分の学習指導方法・技術の参考点)
導入			
各分節で区切る			
展開			
まとめ			

6. 学習反応の記録

先生の発問、問題、児童・生徒の話し合い、を自由に押させ（たとえば、分かった：SW3、集めてテープレコーダー等に記録していた。このデータを授業後に Pen レコーダーに記録させ、記録紙の上に教師、児童・生徒の言語活動を文字で記入した。

授業での教師、児童・生徒の言語活動と反応、さらにビデオで映像から授業の様子分析ができる。

たとえば、発問について、発問点から反応の状況を調べて、各種の研究資料が得られていた。



現在はアナライザーの利用が困難であるため、また、この時の授業分析のために当時の調査データが利用できる。授業の映像から発問、確認、グループ討論、全体討論等のデータを調べ、次に示す当時の資料と比較し、言語活動、映像での学習活動などを用いて総合的な授業分析ができる。

項目	Q ₁	Q ₂	Q ₃
分節(区切り)の数	3	~	6
導入の所要時間	7分	10分	13分
まとめの所要時間	4分	6分	8分
確認の最初の応答	4秒	8秒	14秒
発問の最初の応答	10秒	14秒	20秒
問題の最後の応答	2.6分	3.7分	5.4分
グループ討論	2.2分	3.0分	4.0分
全体討論	1.2分	1.6分	2.4分

四分位	Q ₁	Q ₂	Q ₃
正答			
発問の応答	56%	77%	92%
問題の課題解決	46%	63%	83%
グループ討論	50%	69%	87%
全体討論	53%	73%	87%
分節の通過率	65%	85%	95%

今後、これらのデータの再検討が必要である。

7. 授業原簿表

授業のビデオ撮影記録から映像を再生し、言語活動や時間を記録する授業原簿表を作成していた。

導入、展開、まとめ、分節で区切り、できれば学習フローチャートで、教師が主となる活動 (K)、学習者が主となる活動 (G)、評価 (H) で区切る。

また、行動カテゴリーの T、S は T：教師の行動、S：児童の行動カテゴリーを記入する。(行動カテゴリーは、フランダース、OSIA、小金井等の例を参考に各授業の目的に対応して作成していた。)

授業の原簿		授業名	教師		20 年 月 日		備考 導入・展開 まとめ・分節
分	秒	K:教 G:学 H:評	行動カテゴリー		発言(言語活動)		
			T	S			

教師と学習者の行動分析や親と子供の行動分析もされている。

活動原簿表

教材 からから No.3

記載者： _____

分	秒	P(親)	S(子)	行動記録メモ	M(提示)
4	5	◎P7	S4	次の指示を出す	M5a
	10	◎P3	S4	作り方を見て P は S2 に教える	M5a
	15	◎P3	S4	作り方を見て P は S2 に教える	M5a
	20	◎P7	S5b	P は「次は三角に折るんだよ」と指示	M2
	25	◎P7	S5b	P は「次は三角に折るんだよ」と指示	M2
	30	○P3	○S4	P が教えるのをしっかりと聞く	M2
	35	○P3	○S5a	S2 聞いた後にはさみで切る	M2
	40	○P3	○S5a	S2 聞いた後にはさみで切る	M2
	45	○P3	○S6	S2 切り終える	M2
	50	○P3	○S5a	S2 次の作業を P に聞く	M2
	55	○P3	○S5a	S2 自分で作業を進める	M2
	60	○P7	○S5a	S2 自分で作業を進める	M2

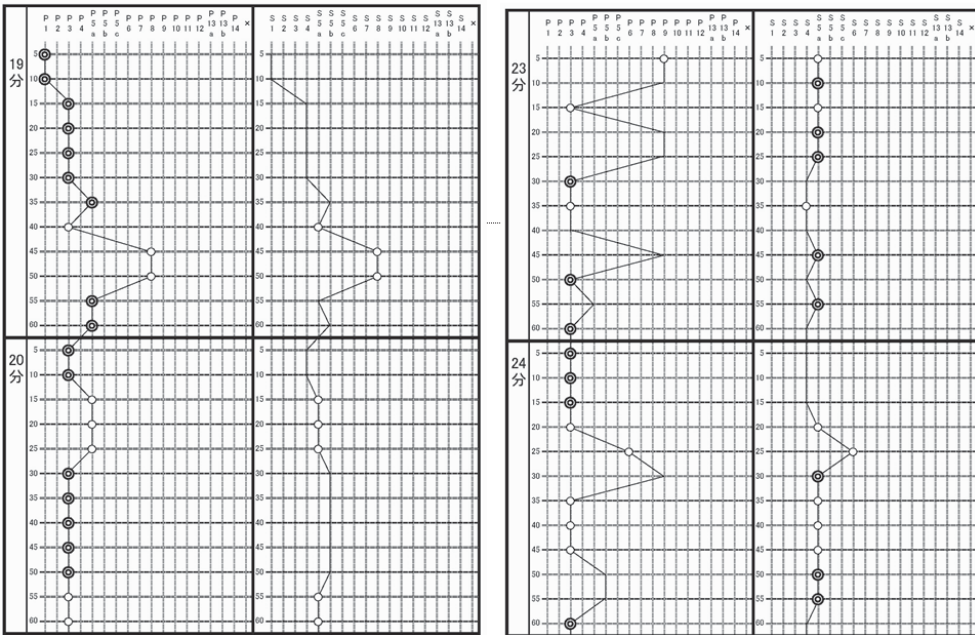
8. 行動カテゴリー記録の表

行動カテゴリーのデータ表は、大きく分けて 2 つあり、時系列のリストと教師・学習者の行動カテゴリーのクロス表がよく用いられた。

□ 親子の活動プロセス表

行動カテゴリー活動プロセス表

NO.1



□ 親子の行動クロス表

親	P1	P2	P3	P4	P5a	P5b	P5c	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13a	P13b	P14	Px
子																		
S1	2																	
S2																		
S3																		
S4																		
S5a		59			1			1	1									
S5b		33		14					11	41								
S5c		15		10								1						
S5c						14												
S6							2											
S7																		
S8									1	2								
S9				4														
S10																		
S11																		
S12																		
S13a									1									
S13b																		
S14																		
Sx					1				3								2	

□ 親子の行動クロス表(%表示)

子	親	P1	P2	P3	P4	P5a	P5b	P5c	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13a	P13b	P14	Px
S1	5																		
S2					1														
S3																			
S4	1	1							1							1			
S5a		1	10		5				5	1	10								2
S5b		2	2		2	2	3		1		2								
S5c							11				1								
S6			2	2															
S7																			
S8										2	1	1	1						
S9		2	1											1					
S10																			
S11																			
S12													1	1					
S13a																			1
S13b																			
S14											1								1
Sx										1									

本資料は、2009年に沖縄の親子の関係を調べた例である。(1970年代の良い例が、当時の印刷が悪く提示できないため。)

9. 導入・展開・まとめ・分節の学習状況調査表

学習指導計画書の作成、授業分析は多くの教員で実践研究を進めていた。このため、各教員の分析結果等をまとめるため、学習状況の調査表を作り、問題点を明らかにしていた。

導入・展開・まとめ／分節の学習状況調査表 教師名 _____ 年 月 日

分節	目標	学習状態 (達成状況)	備考
導入 分 秒	(復習)		
	(本時の学びのねらい)		※分節で区切る
展開			
まとめ			

←問題点・改善点を記入
(注) 授業の内容や分析の目的で変更していた。

授業のねらいについて、それぞれの達成状況、問題点、改善点を備考に記入

授業全体	目標 (ねらい)	達成状況	備考
導入			
展開			
まとめ			

これを共同で作成し、学習指導計画書を作る基礎資料にしていた。

10. 発問・確認、話し合い、教材・資料の活用

授業のどこ（位置）で、どのような活動（発問、確認、話し合い、教材提示・利用、資料の活用・調査、実習棟）内容に対し、学習状況（前後の関係、授業時間内、単元の関係も含め）を記述していた。（課題のある活動を中心に）

位置	分 秒	活動の内容	学習状況（前後関係含む）	備考

このような表に発問・確認などのデータを記入し、分析処理をしていた。（位置欄には、導入、展開、まとめのどの分節か、やフローチャートの番号などを記入していた。）

11. 教材

教材の分析・改善には、主として理解度や各種調査がされていたが、中学・高校等では次のような表を作って調べ、改善していた。

教材(各教材, デジタル教科書, 学習プリントも含む) ①②③④⑤は必要に応じて変更する

教材・タイトル 教材でついた力を具体的に書く	適否と改善点
①わかる	
②できる	
③考える(力)	
④見方	
⑤学習力	

当時は、この他に各種の調査が行われていた。

たとえば、誤りの傾向（カテゴリー分布）、イメージの変化など教材の学習状態がよく調べられていた。

また、学習のプロセスの分布として、エントロピー処理などを用いて、どのように学習が定着したかが分析されていた。（これらについては、本誌で紹介している。）

教材名

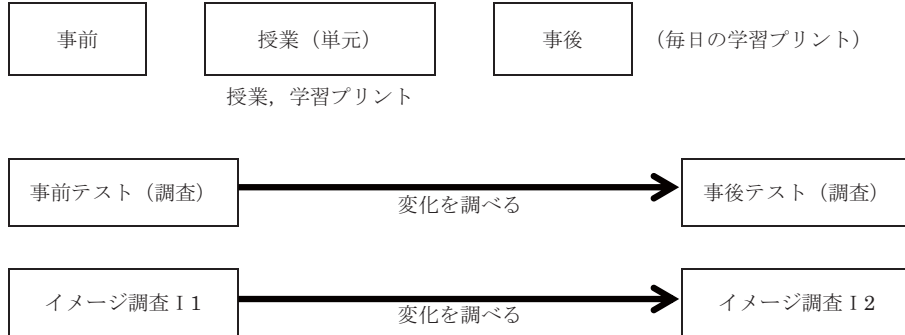
利用時間	最初 分 秒, 最後 分 秒, 理解度 %	
	各目標欄ここのように役立つ教材か	
単元の目標		適否
本時の目標		適否
分節の目標		適否
不必要な内容		適否
表現の適否(教材として図, 映像, 文章, 等の表現)		
言語活動の適否(論理的にすじ通のあるまた, 学習に役立つ言語であるか)		
教材の改善点		

12. 授業での学習評価（参考）

授業の前・後や学習プリントで各種の調査がされ、それぞれの表やグラフが作られた。

学習状態の変化の調査等（処理方法等は、他にテキストを参照）

〔例〕



（1）授業の中で利用する学習プリント

- ・授業用の学習プリントの理解度や自信等の調査項目を入れ評価する。

自信が ある，なし

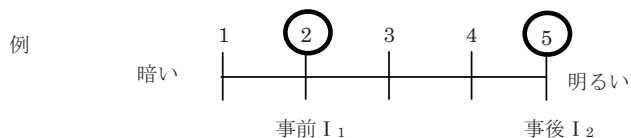
- （例）①他人に聞いてできる ②プリントを見ればできる（教科書、本でもよい）
③1人でできる ④他人に教えられる

- ・学習プリントに形成的評価項目を入れる。

（2）事前・事後テスト

伸び率，変化率，を調べる

（3）教材や授業によって，どのようにイメージが変わったか調べる。



$$\Delta I = I_2 - I_1 = 5 - 2 = 3$$

論文・文献等リスト（岐阜）

- 1) 後藤忠彦、学校におけるコンピュータの教育利用—可能性への挑戦—、日本教育新聞社、1985、184p
- 2) 後藤忠彦、学習指導とコンピュータ—学習ソフトの開発とその利用—続・可能性への挑戦、日本教育新聞社、1987、273p
- 3) 後藤忠彦、コンピュータと教育情報システム、東京書籍株式会社、1986、165p
- 4) 教育工学研究成果刊行委員会（代表大塚明郎）編、教育工学の新しい展開、第一法規、1977、651p
- 5) 学習システム研究会、学習指導設計書 HPF-W2—波動—、SIS-TEM No.20、1976、98p
- 6) 学習システム研究会、家庭科学習調査 1—被服 1—、SIS-TEM No.21、1976、91p
- 7) 学習システム研究会、学習指導設計書 ES5-E1—電流と発熱—、SIS-TEM No.25、1976、55p
- 8) 物理 I 学習指導設計書、学習システム研究会、1978、175p
- 9) 廣瀬弘・森幸雄・後藤忠彦・成瀬正行、CMI システムについて、岐阜大学教育学部研究報告—自然科学— 第 5 巻第 1 号、1972、pp11-33
- 10) 廣瀬弘代表、文部省科学研究費特定研究「科学教育」広瀬班報告書 TM 計測による理科教育の研究、岐阜大学教育学部物理学教室内、1971、97p
- 11) 松川禮子・安藤一郎・後藤忠彦・豊吉律子、論理的思考に関する言語のコード化と使用状態の分析、岐阜大学カリキュラム開発研究センター研究報告 1-1、1981、p39-74
- 12) 安藤一郎・松川禮子・後藤忠彦・長屋正弘・豊吉律子、論理的思考に関する言語の習得状態の調査、岐阜大学カリキュラム開発研究センター研究報告 1-1、1981、p48-52
- 13) 後藤忠彦・安藤一郎・松川禮子・長屋正弘・豊吉律子、論理的思考に関する言語の学習過程の分析と指導方法の検討、岐阜大学カリキュラム開発研究センター研究報告 1-1、1981、p53-60
- 14) 後藤忠彦・小林秀臣・子安一徳・他 2 名、テレビ教育における非言語的学習効果の実証的研究、放送文化基金研究報告、1980、p146-151
- 15) 後藤忠彦、SIS-TEM III-A Computer-Based Educational System、Educ.Technol.Res.4-1・2、1980、p47-60
- 16) 山田功・後藤忠彦・佐藤正明・竹中洵治、Item Bank を用いた学習項目の系列化と使用法、電子通信学会 ET80-3、1980、p63-66
- 17) 瀬ノ上裕・後藤忠彦・水野紀代・林真千子・小林秀臣、CMI システム導入の 1 年後の評価、電子通信学会 ET80-3、1980、p79-82
- 18) 後藤忠彦・長屋正弘、基礎的・基本的な事項を重視する視写指導、岐阜大学 CRDC データレポート 81、1980
- 19) 後藤忠彦・永田悦子、分布関数を用いた評価項目決定に関する処理の一方法、岐阜大学 CRDC データレポート 71、1979
- 20) 成瀬正行・後藤忠彦、Response Structure Sequencing of Instructional Items、Educ.Technol.Res.3-1、1979、p47-60
- 21) 山田克美・後藤忠彦・佐藤正明、データバンクを用いた評価問題の決定法について～SIS-TEM III による物理評価項目の管理を利用して～、日本化学教育学会第 3 回年会論文集、1979、p171
- 22) 後藤忠彦、学習項目検索システムを用いた学習項目系列化の研究、科研 79～80、1979
- 23) 横山節雄・後藤忠彦・永野和男・若山皖一郎、学習反応データ処理様式の共通化について、電子通信学会 ET79-3、1979
- 24) 後藤忠彦、項目ライブラリを用いた CAI 学習プログラムの設計（I）、電子通信学会 ET79-3、1979
- 25) 後藤忠彦・永野和男・安藤一郎・松川禮子、小学校における教育用語（国語・社会・算数・理科）の学年別の使用状態～教科書の言語分析と実践のためのハンドブック～、岐阜大学 CRDC データレポート 52、1979
- 26) 安藤一郎・後藤忠彦・後藤愛・林真千子、小学校算数（6 年間）の CMI システムの構成—SIS-TEM III を用いた学習評価・処方の継続研究—、電子通信学会 ET79-3、1979
- 27) 安藤一郎・後藤忠彦・松川禮子、論理的思考操作に関する言語の習得状態、文部省特定研究言語研究発表論文集、1979、p43-44
- 28) 岩崎潔、教師の授業事前研究及び諸準備等の実践状況の分析～教育課程実施に関連して～SIS-TEM Vol.2 No.10、1979
- 29) H.Kato・R.Matsukawa・C.Matsui・H.Kobayashi・J.Torii・T.Nishio・N.Honda・Y.Usui・T.Fujii、Cloze Testing I、SIS-TEM Vol.2 No.6、1979
- 30) 小林秀臣・子安一徳・堀口悟・八神武夫・西脇憲保、提示（放送教育）と教授・学習者の特性の関係について、電子通信学会教育技術 ET79-3、1979、p65

- 31) 子安一徳・小林秀臣・長屋正弘・堀口晤・八神武夫・戸崎雄弘・石原伸吾・安藤欣治・西尾直枝・西村典正、放送教育における意識調査の活用法～調査項目と調査データのまとめ方～、SIS-TEM Vol.3 No.2
- 32) 岐阜県高等学校家庭科研究グループ、学習指導設計書 家庭一般 被服製作(スカート)、学習システム研究会、1979
- 33) 松川禮子・後藤忠彦・藤井俊満、クローズテストの提示法とデータ管理、岐阜大学 CRDC データレポート 45、1978
- 34) 安藤一郎・後藤忠彦・松川禮子・豊吉律子・その他、思考操作に関する言語の分析 I ～算数教育における論理的語彙について～、岐阜大学 CRDC データレポート 35、1978
- 35) 後藤忠彦、SIS-TEMIII を用いた学習項目の編集、電子通信学会 ET78-5、1978
- 36) 安藤一郎・後藤忠彦・林真千子・後藤愛・豊吉律子、SIS-TEMIII を用いた算数評価システム～評価項目の設定と活用法～、岐阜大学 CRDC データレポート 49、1978
- 37) 永野和男・後藤忠彦、学習データ処理システムの入力様式の検討、電子通信学会 ET78-12、1978
- 38) 後藤忠彦、教授・学習過程設計のための学習項目検索システムの開発、科研 78、1978
- 39) 安藤一郎・後藤忠彦・松川禮子・後藤愛・豊吉律子、思考操作に関する言語の分析(II) ～各言語の学習状態の検討～、岐阜大学 CRDC データレポート 50、1978
- 40) 後藤忠彦、小学校用 CMI システム、電子通信学会 ET78-5、1978
- 41) 成瀬正行・後藤忠彦・北岡武・稲葉一・その他、物理〔I〕学習ノート プログラム物理 Vol.1・2、秀文堂、1978
- 42) 後藤忠彦・稲葉一・山田克美・成瀬正行・他、物理 I 学習指導設計書、学習システム研究会、1978、p1-175
- 43) 後藤忠彦、テレビ教育における非言語的学習効果の実証的研究、放送文化基金 78、1978
- 44) 伊藤秀子・藤田恵壘・成瀬正行、未知の対象に対する児童の観察・推論過程の分析～アフリカツメガエルの観察事例、科学教育研究 Vol.2 No.3、1978
- 45) 岩崎潔、義務教育学校における教師の授業事前研究、諸準備についての実態分析、SIS-TEM No.33、1978、p38
- 46) 岩崎潔、教師の授業事前研究及び諸準備等の実践状況の分析～教育過程実施に関連して～、SIS-TEM Vol.2 No.3、1978、p1
- 47) 佐藤正明、提示に対する反応分析、SIS-TEM No.36、1978
- 48) 藤田恵壘、教育における評価の新しい役割、日本歯科評論 No.425、1978
- 49) 後藤忠彦・成瀬正行・樋田陽子・磯野紀代、小学校用 CMI システム(1)、電子通信学会教育技術 ET78-5、1978
- 50) 後藤忠彦・安藤一郎・村瀬康一郎、データプールの構成と処理法～SIS-TEMIII の学習反応データ記録管理法～、CRDC データレポート No.40、1978
- 51) 磯野紀代、言語データプールの処理システム、SIS-TEM No.34-3、1978
- 52) 白井賢二、言語データの管理と評価システム、SIS-TEM No.34-3、1978
- 53) 山田克美・山田功・竹中洵治・松野光暢、SIS-TEMIII を用いた学習分析、電子通信学会教育技術 ET78-5、1978
- 54) 松川禮子・後藤忠彦・藤井俊満、クローズテストの提示法とデータ管理、CRDC データレポート No.45、1978
- 55) 成瀬正行・後藤忠彦・稲葉一・加藤和男・松野光暢・中島崇・佐藤正明・竹中洵治・山田功・山田克美・山口義文・新田直、物理 I 学習指導設計書、学習システム研究会、1978、p1-175
- 56) 成瀬正行・後藤忠彦・北岡武・稲葉一・加藤和男・松野光暢・中島崇・佐藤正明・竹中洵治・山田功・山田克美・山口義文、物理〔I〕学習ノート Vol.1・Vol.2、秀文堂、1978
- 57) 林博之、高校化学における化学実験過程の分析とそのデザインについて、SIS-TEM No.36、1978
- 58) 松岡博・後藤敏彦・井上志朗・栗本幹雄・西脇憲保・細川明博・鈴木富重・横山隆光・新田直、中学理科「力」学習指導設計書、ニュース Vol.2 No.1、1978
- 59) 岡田外志・岩崎潔・川瀬雅司・中野康弘・嶋浩二、学習者に適応した学習設計のための基礎研究～関数教材の学習分析～、SIS-TEM No.33、1978、p14
- 60) 岡田外志・岩崎潔・川瀬雅司・中野康弘・嶋浩二、学習者に適応した学習設計のための基礎研究～関数教材の学習分析～その 2、SIS-TEM No.36、1978
- 61) 小林秀臣・加藤英夫、ヒヤリングテストの分析(1)、SIS-TEM No.36、1978
- 62) 野原佳代子・松川禮子・後藤忠彦・小林秀臣・加藤英夫・小野優子・藤井俊満、英語に対する学習意欲の調査、SIS-TEM Vol.2 No.2、1978
- 63) 加藤英夫・小林秀臣・鳥居甚吾・西尾典・本田修也・臼井泰、英語科における中・高の関連をふまえて

- た基礎的な言語活動の実態と分析、SIS-TEM Vol.2 No.3、1978、p19
- 64) 松川禮子・加藤英夫・小林秀臣・鳥居甚吾・西尾典・本田修也・臼井泰・藤井俊満、クローズテストの提示法とデータ管理、SIS-TEM Vol.2 No.4、1978
- 65) 西之園晴夫・永野和男・成瀬正行、教育文献の情報検索とキーワードの選定IV－教育文献表題からの用語の抽出とその表示－、CRDC データレポート No.53、1978
- 66) 教育情報処理研究班、学校から家庭への連絡項目の調査～親の希望～、学習システム研究 Vol.1No.1、1978、p7
- 67) 岩崎潔、よりよい授業計画案を作成するために～授業計画細目表～、学習システム研究 Vol.1 No.1、1978、p9
- 68) 教育情報処理研究班、小学校高学年用の生活目標の自己評価、学習システム研究 Vol.1 No.1、1978、p20
- 69) 藤田恵璽、学習評価について、学習システム研究 Vol.1 No.2、1978、p9
- 70) 瀬ノ上裕・西村典正・柏信之・磯野紀代、CMI システムを用いた個別指導の一試案、学習システム研究 Vol.1 No.3、1978、p13
- 71) 永野和男、教育情報の蓄積と再利用、学習システム研究 Vol.1 No.3、1978、p23
- 72) 北岡武、CAI について、学習システム研究 Vol.1 No.4、1978、p14
- 73) 成瀬正行・後藤忠彦、反応構造による教授項目の系列化、日本教育工学雑誌 2-4、1977、p137-147
- 74) 成瀬正行・後藤忠彦・北岡武・山田克美・その他、SIS-TEMIIIを用いた学習の設計と試行～“波動”を事例として～、日本化学教育学会第1回年会論文集、1977、p131
- 75) 松川禮子・後藤忠彦・藤掛庄市、英単語の評価と SIS-TEMIIIの利用、電子通信学会 ET77-3、1977、p73
- 76) 石田明靖・藤田恵璽・成瀬正行、観察学習における視点の集中度に関する一考察～相対編平度について～、日本科学教育学会発表資料、1977
- 77) 伊藤秀子・藤田恵璽・成瀬正行、未知の対象に対する児童の観察・推論過程の分析～アメリカツメガエルの事例研究～、日本科学教育学会発表資料、1977
- 78) 児島理生・伊藤秀子・藤田恵璽・成瀬正行、四季に対する子どものイメージの実態とその発達、日本科学教育学会発表資料、1977
- 79) 成瀬正行・北岡武・山田克美・松野光暢・竹中洵治、SIS-TEMIIIを用いた学習の設計と試行～「波動」を事例として～、日本科学教育学会年会研究発表資料、1977、p133
- 80) 稲葉一、学習目標の設定とコード化、ニュース No.17、1977
- 81) Fujita.K & Naruse.M、An analysis of test item response times ~Their relationship to correctness and confidence ~、Educational Technology Research Vol.1 No.5、1977
- 82) 井上志朗・橋本登志子・西脇憲保、線結び法を用いた教授法の評価・改善、SIS-TEM No.31、1977、p8
- 83) 成瀬正行・岩崎潔・近藤たつ子・稲葉一、CMIの利用状況に関する分析、電子通信学会教育技術 ET77-3、1977
- 84) 稲葉一・成瀬正行・北岡武・山田克美、SIS-TEMIIIを用いた物理 I のアイテムライブラリ、SIS-TEM No.32、1977、p1
- 85) 成瀬正行、学習プログラム「波動」の開発 (CAI 学習の評価結果記載)、機械振興協会、1977、p35
- 86) 山田克美・松野光暢・佐藤正明・山口義文、物理 I プログラムドブックの作成とその利用、SIS-TEM No.31、1977p12
- 87) 学習システム研究会中学理科班、中学理科新学習指導要領に対応した学習項目のコード化、SIS-TEM No.31、1977、p54
- 88) 林博之、化学実験における学習活動の分析 I ～実験状況の写真撮影とそのカテゴリー化一方法～、SIS-TEM No.32、1977、p9
- 89) 安藤一郎、分数計算の障害についての分析と指導上の問題点、CRDC テクニカルレポート TR-28-J、1977
- 90) 安藤一郎、分数学習における概念理解、計算力、応用力との関連、CRDC テクニカルレポート TR-30-J、1977
- 91) 内藤豊子・松川禮子・石井祥子・佐藤直子、英語学習プロセスの分析、SIS-TEM No.31、1977
- 92) 松川禮子・後藤忠彦・臼井賢二、連語の管理・評価システム～連語の分析と評価への適用～、SIS-TEM No.32、1977、p33
- 93) 成瀬正行・後藤忠彦・北岡武、プログラムドブック 波動 I、岐阜大学 CRDC データレポート 16、1976

- 94) 成瀬正行・後藤忠彦・藤田恵壘・伊藤秀子、データバンクを中心とする岐阜大システム SIS-TEMⅢの構成、電子通信学会 ET76-3、1976、p31
- 95) 後藤忠彦、学習指導設計書 波動、岐阜大学 CRDC データレポート 15、1976
- 96) 後藤忠彦・樋田陽子・早見智恵子、SIS-TEMⅢの DATAPOOL、岐阜大学 CRDC データレポート 22、1976
- 97) 後藤忠彦・松川禮子、SIS-TEMⅢの Item Library、岐阜大学 CRDC データレポート No.2、1976
- 98) 成瀬正行・藤田恵壘・後藤忠彦・稲葉一・岩崎潔、SIS-TEMⅢを用いた学習指導設計書の作成、電子通信学会 ET76-3、1976、p43
- 99) 藤田恵壘・後藤忠彦・松川禮子・成瀬正行・他、SIS-TEMⅢの学習評価への適用、電子通信学会 ET76-3、1976、p49
- 100) 成瀬正行・後藤忠彦・藤田恵壘・伊藤秀子・その他、SIS-TEMⅢの構成、電子通信学会 技術報告 76-62、1976
- 101) 松岡博・後藤忠彦、学習指導設計書（中学理科）JSF-P1～教育実習の記録とその分析 光とレンズ～、SIS-TEM 28、1976
- 102) 井上志朗・野村明文・後藤敏彦・後藤忠彦・その他、学習指導設計書 ES5-E1～電流と発熱～、SIS-TEM 26、1976
- 103) 後藤忠彦、学習指導設計書と学習評価処方 の現状、SIS-TEM 27、1976
- 104) 後藤忠彦・藤田恵壘・藤掛庄市・松川礼禮・成瀬正行、SIS-TEMⅢを用いた教授学習のデータ処理、電子通信学会 ET76-3、1976
- 105) 後藤忠彦、メモリアナライザーの試作とその利用、ET75-3、1976、p23-28
- 106) 藤田恵壘・成瀬正行、テスト項目の反応時間～正誤および自信との関連について～、日本教育工学雑誌 Vol.1 No.1、1976
- 107) 藤田恵壘・後藤忠彦・松川禮子・成瀬正行・山田克美・佐藤直子、SIS-TEMⅢの学習評価への適用、電子通信学会教育技術 ET76-3、1976
- 108) 中島崇、稲葉一・山田克美・竹中洵治・松野光暢・佐藤正明・山田功・山口義文・加藤和男・那須為朋・後藤忠彦、学習志度字設計書 HPP-M2-運動一、SIS-TEM No.24、1976
- 109) 岩崎潔、小学校図形の学習調査 I、SIS-TEM No.23、1976
- 110) 松岡博・西脇憲保・細川明博・鈴木富重・後藤敏彦・野呂忠脇、学習指導設計書（中学理科）JSF-EM1 電流と磁界、SIS-TEM No.26、1976
- 111) 松岡博・後藤忠彦、学習指導設計書（中学理科）JSF-P1 教育実習の記録とその分析 光とレンズ、SIS-TEM の.28、1976
- 112) 松川禮子、教材としての Picture card の評価、中部地区英語教育学会紀要 6-I、1976
- 113) 本巣郡本巣中学（岩崎潔）、学校教育目標の行動目標化の手だてと生徒ひとりひとりの目標への到達度の確認及びその指導～コンピュータ処理とその活用、SIS-TEM No.22、1976
- 114) 成瀬正行、カリキュラム開発と教育評価、技術・家庭教育 Vol.27 No.2、1976
- 115) 野村明文、効果的な個別学習指導を行うために・机間巡視時にどんなところを見るか、教育科学理科学教育 Vol.8 No.86、1976、p61
- 116) 後藤忠彦、学習計画立案における基礎データの適用、ニュース No.14、1975
- 117) 後藤忠彦・山田克美・松野光暢・那須為朋・その他、学習指導 HPP-W2～波動～、岐阜大学 CRDC データレポート 5、1975
- 118) 後藤忠彦・伊藤重夫、学習反応データバンク～構成と操作システム～、岐阜大学 CRDC データレポート 7、1975
- 119) 後藤忠彦・伊藤重夫、情報論的データ処理 I、岐阜大学 CRDC データレポート 3、1975
- 120) 後藤忠彦・樋田陽子、多変量解析 I～データ処理システムとその操作～、岐阜大学 CRDC データレポート 9、1975
- 121) 成瀬正行、カリキュラム開発における教師の役割と教師教育、文部省（カリキュラム開発に関する国際セミナー報告書）、1975
- 122) 藤田恵壘、教育テストの得点構造と得点分析、行動計量学 Vol.3 No.1、1975
- 123) 近藤たつ子・丹羽君子・奥田正子・安田笑子・丹羽知世子・池田幸子・佐久間朋子、家庭科における学習システム化 1-学習計画、岐阜県教育委員会、1975
- 124) 岩崎潔、学習プリントを活用しての授業構造の究明～学習の個別化と学習の効率化をめざして、ニュース No.10、1975
- 125) 成瀬正行、形成的評価の評価視点・評価項目、授業研究 No.150、1975
- 126) 藤田恵壘、多重対問テストと項目分析、電子通信学会教育技術 ET 75-6、1975

- 127) 成瀬正行、多重対問による認知構造の捉え方、現代教育科学 No.221、1975
- 128) 藤田恵蘊、児童理解のためのテストの利用、児童心理 Vol.29 No.3、1975
- 129) 藤田恵蘊、診断的評価と形成的評価、指導と評価 Vol.21 No.4、1975
- 130) 井上志朗、理科アイテムプールの作成と学習への適用、ニュース No.14、1975
- 131) 近藤たつ子・河野智恵・今村花枝・宮島雪・丹羽君子・奥田正子・安田笑子・丹羽知世子・佐久間朋子、家庭科技術検定にかかわる基礎研究（コンピュータを用いて技術検定のより広い活用をめざして）、ニュース No.9、1975
- 132) 松川禮子、英語によるコミュニケーションの成立と所要時間、岐阜大学研究報告 No.23、1975
- 133) 松川禮子、授業中の観察、英語教育の研究、1975
- 134) 後藤忠彦、CMIによるデータ処理出力について、電子通信学会 ET73-10、1974
- 135) 成瀬正行・後藤忠彦、CMIによる教授・学習の評価と設計の方法、科研 柿内班、1974
- 136) 成瀬正行・後藤忠彦、CMIによる教授学習の分析と「重さの保存」学習の事例研究、文部省科学研究費柿内班岐阜大学グループ研究報告、1974
- 137) 岩崎潔、学習過程の評価への学習プリントの利用法、ニュース No.7、1974
- 138) 中島崇、生徒評価にもとづく学習指導改善へのCMIの利用例、電子通信学会教育技術、1974、
- 139) 山田克美、CMIによる学習の分析と診断について、電子通信学会教育技術、1974
- 140) 佐藤正明、TA反応の分析～個人の処方箋の作成と適用～、ニュース No.5、1974
- 141) 中島崇、学習過程での個人診断の方法、ニュース No.7、1974
- 142) 伊藤昭司、学習プロセスの分析とエントロピー、SIS-TEM No.15、1974、p63
- 143) 佐藤正明、高校物理教材のエントロピー処理について、ニュース No.6、1974
- 144) 東松義治・堀口昭、理科学習プリント てんびんのつりあい（4年生）、ニュース No.1、1974
- 145) 松岡博、学習フローチャートとその分析法、ニュース No.6、1974
- 146) 近藤たつ子、家庭科技術検定における評価とCMIの利用、電子通信学会教育技術、1974
- 147) 岩崎潔・後藤敏彦・村瀬登志夫・小林躋頼・東松義治・加藤卓・野村明文・木股孝一・瀬ノ上裕・岩田房子、算数学習プリント（小学校1年～6年の不等式・等式の学習プリント）、ニュース No.2、1974
- 148) K. Fujita and M. Naruse, An Analysis of Test Item Response Times, TR-15-E、1974
- 149) 山田克美・後藤忠彦、学習分析とエントロピー処理、SIS-TEM 9、1973、p29-
- 150) 後藤忠彦・東松義治、学習分析診断の一方法、SIS-TEM 7、1973、P24-
- 151) 後藤忠彦・成瀬正行、岐阜大学教育工学センターのCMIシステム、電子通信学会、1973、p85-
- 152) 後藤忠彦・成瀬正行、磁気テープを用いた個人反応記録装置について、電子通信学会 ET73-11、1973、p51
- 153) 藤田恵蘊・成瀬正行、「重さの保存」学習のテスト分析、電子通信学会、1973、p46
- 154) 成瀬正行・藤田恵蘊・遠藤哲夫・松尾芳樹・松野光暢、「重さの保存」学習テスト分析Ⅰ 項目分析（1）正誤（X）－自信（Y）－時間（Z）分析、TR-04-J、1973
- 155) 成瀬正行・藤田恵蘊・遠藤哲夫・松尾芳樹・松野光暢、「重さの保存」学習テスト分析ⅣⅠ 項目分析（4）項目間分析、TR-07-J、1973
- 156) 藤田恵蘊・成瀬正行、A Preliminary Analysis of the Learning of Weight Conservation by Fifth and Sixth Grade Children、TR-09-J、1973
- 157) 成瀬正行・藤田恵蘊・遠藤哲夫・松尾芳樹・松野光暢、「重さの保存」学習テスト分析ⅥⅠ 項目分析（6）反応時間分析、TR-10-J、1973
- 158) 岩崎潔・東松義治・荒井豊・木股孝一、学習プリントを用いた学習の分析法（1）～小学校算数～、SIS-TEM No.9、1973、p5
- 159) 山田克美、集団反応・個人反応を用いた学習の分析・診断の一方法、SIS-TEM No.8、1973、p61
- 160) 稲葉一、学習分析へのCMIシステムの利用例、電子通信学会、1973、p69
- 161) 後藤忠彦、TAを導入してスイッチの使い方、SIS-TEM 5、1972
- 162) 後藤忠彦、グループ討論と集団反応装置（TA）、SIS-TEM 4、1972、p17-
- 163) 後藤忠彦・その他、集団反応曲線の電子計算機への入力処理、SIS-TEM 4、1972、p54-
- 164) 後藤忠彦、電子計算機による個人反応データの処理（1）、SIS-TEM 5、1972、p64-
- 165) 後藤忠彦、電子計算機による授業の分析（1）、SIS-TEM 5、1972、p59-
- 166) 萩野浩・岡田一忠・片山鍾一・松井温尚、導入域とまとめ域にあらわれる反応曲線の相関について、特に評価1、0の変化型別出現頻度、SIS-TEM No.3、1972、p64
- 167) 萩野浩・岡田一忠・片山鍾一・松井温尚、導入域、まとめ域における評価の相関について、SIS-TEM No.3、1972、p67
- 168) 萩野浩、導入域とまとめ域にあらわれる反応曲線の相関についての解説、SIS-TEM No.4、1972、p10

- 169) 西武芸小学校、西武芸小学校における集団反応曲線のパターン (1)、SIS-TEM No.6、1972、p4
- 170) 市原博、1 パートの前後の探査による変化、SIS-TEM No.3、1972、p10
- 171) 佐藤正明・中島鉦次、個人反応—集団反応による分析、SIS-TEM NO.3、1972、p41
- 172) 山田克美、TA による記入記録の 1 つの分析、認識反応と定期試験成績との関連、SIS-TEM No.3、1972、p44
- 173) 岩田房子、評価と行動記録を用いた授業分析の一方法、SIS-TEM No.3、1972、p91
- 174) 加藤卓・浅野亨・稲葉一芳、一単元の個人反応データを用いた分析、SIS-TEM No.6、1972、p14
- 175) 藤井秋夫・宮田一夫・堀満澄・木股孝一・種田精一郎・津田文司・吉田千枝子・山田八重子・荒深スマ子、本校における探査、確認的発問の問題点、SIS-TEM No.3、1972、p83
- 176) 藤井秋夫・宮田一夫・堀満澄・木股孝一・種田精一郎・津田文司・吉田千枝子・山田八重子・荒深スマ子、クラス全体討論における個人の活動について、SIS-TEM No.3、1972、p105
- 177) 佐藤正明、TA 反応の分析 個人の処方箋の作成と適用 1、SIS-TEM No.5、1972、p48
- 178) 佐藤正明、個人の処方箋の適用結果について、SIS-TEM NO.6、1972、p9
- 179) 浅野亨・加藤卓・稲葉一芳、個人診断の利用法、SIS-TEM No.6、1972、p11
- 180) 山田克美、高校物理の授業分析について スケログラムを中心として、SIS-TEM No.6、1972、p33
- 181) 井上志朗、中学校個人データの使用例、SIS-TEM No.6、1972、p25
- 182) 稲葉一・高木猛夫、実験を主とした個人分析「すべり摩擦」II、SIS-TEM No.5、1972、p46
- 183) 二村正子、高等学校家庭科(食物)の学習項目習得過程の評価、SIS-TEM No.3、1972、p31
- 184) 橋本登志子、家庭科の 1 時限の分析、SIS-TEM No.3、1972、p57
- 185) 二村正子、家庭科(高等学校)における集団反応曲線、SIS-TEM No.6、1972、p41
- 186) 東俊雄、産業公害の指導について(教育機器を利用して)、SIS-TEM NO.4、1972、p26
- 187) 東俊雄、公害学習のあり方と実践、SIS-TEM No.5、1972、p31
- 188) 後藤忠彦、計測用 TM の処理システム、電子通信学会 E71-3、1971、p1-7
- 189) 岐阜大学共同研究、T.M.計測による理科教育の研究第 7 報、TM 研究、1971
- 190) 岩崎潔、基礎量についての一考察、SIS-TEM No.2、1971、p1
- 191) 成瀬正行、計測用 TM による学習反応の計測結果、電子通信学会教育技術研究会 E71-3、1971、p8
- 192) 佐藤正明、計算問題の難易と処理関数との関係、SIS-TEM No.2、1971、p54
- 193) 森幸雄、学習内容の構造図化、SIS-TEM No.2、1971、p70
- 194) 二村正子、TA を用いた高等学校家庭一般(食物分野)の分析、SIS-TEM No.2、1971、p21
- 195) 橋本登志子、技術、家庭科(女子向)における探査的発言と生徒の反応、SIS-TEM No.2、1971、p44
- 196) 岐阜大学共同研究、SW による反応時間の測定、TM 第 6 報、1970、p3-7
- 197) 岐阜大学共同研究、図形認識(1)、TM 第 6 報、1970、p8-12
- 198) 岐阜大学共同研究、忘却度の測定とその反応、TM 第 6 報、1970、p13-16
- 199) 岐阜大学共同研究、速度感覚の発達および性格との関係、TM 第 6 報、1970、p17-21
- 200) 岐阜大学共同研究、集団反応曲線とフローチャート、TM 第 6 報、1970、p22-23
- 201) 岐阜大学共同研究、SW 型式と反応曲線の評価計測量、TM 第 6 報、1970、p24-27
- 202) 岐阜大学共同研究、授業の流れと反応曲線の評価計測量、TM 第 6 報、1970、p28-31
- 203) 岐阜大学共同研究、授業形態と反応曲線音評価計測量、TM 第 6 報、1970、p32-35
- 204) 成瀬正行・後藤忠彦・山田昭郎、ブロックの出現頻度と授業形態別所要時間、TM 第 6 報、1970、p42-46
- 205) 成瀬正行・後藤忠彦・梶田福好、TA 個人反応と評価計測量、TM 第 6 報、1970、p47-49
- 206) 後藤忠彦・成瀬正行・高居八一郎、個人記録処理装置(14 チャンネル方式)、TM 第 6 報、1970、p52-57
- 207) 後藤忠彦・広瀬弘・福島久生、個人記録分離装置(3・5・3-2 チャンネル方式)、TM 第 6 報、1970、p58-64
- 208) 成瀬正行・後藤忠彦・高居八一郎・佐藤正明、データ処理制御装置、TM 第 6 報、1970、p74-77
- 209) 後藤忠彦・石黒鈺二・成瀬正行、集団反応曲線(1 ユニット)評価のためのある処理関数について(1)、SIS-TEM 1、1970、p12-21
- 210) 後藤忠彦・森幸雄・成瀬正行、集団反応曲線(1 時限、1 パート)評価のためのある処理関数について(2)、SIS-TEM 1、1970、p22-
- 211) 後藤忠彦・森幸雄・成瀬正行、集団反応曲線分析の手順について(1)、SIS-TEM 1、1970、p5-10
- 212) 松岡喜美子・岩田晃・後藤敏彦・野村明文、小学校理科における教師の発言と児童の発言(1)、SIS-TEM No.1、1970、p40

- 213) 森幸雄、計測用 T.M.を用いた理科教育における学習フローチャートの活用、TM 第 5 報、1969、p1-14
214) 成瀬正行、計測用 T.M.による集団反応曲線の分析 (3)、TM 第 5 報、1969、p15-23
215) 後藤忠彦、計測用 T.M.による集団反応曲線の分析 (4)、TM 第 5 報、1969、p24-36
216) 後藤忠彦、計測用 T.M.による集団反応曲線の分析 (1)、TM 第 4 報、1969、p7-10
217) 森幸雄、計測用 T.M.による集団反応曲線の分析 (2)、TM 第 4 報、1969、p11-14
218) 森幸雄、計測用 TM を用いた学習活動における諸因子、TM 第 4 報、1969、p15
219) 後藤忠彦、TM を用いた交通安全、TM 研究、1968、p30-44
220) 土屋和夫、工学の立場から見た学習過程と T.M.について、TM 研究、1968、p65-72
221) 湯川二郎、授業の論理、TM 研究、1968、p73-76
222) 成瀬正行、American Education における Computer—研究の現況—、TM 研究、1968、p77-88
223) 織田正、心理学からみた T.M.、TM 研究、1968、p88-89
224) 岐阜大学共同研究、ティーチング・アナライザーによる計測、TM 第 1 報、1968、p11-20
225) 岐阜大学共同研究、ティーチング・アナライザーによる授業分析、TM 第 1 報、1968、p35-46
226) 岩田晃、計測用ティーチング・アナライザーを用いた授業、TM 第 1 報、1968、p71

227) 岐阜大学共同研究、計測用ティーチング・マシンの問題点、TM 第 2 報、1968、p51-60
228) 岐阜大学共同研究、計測用ティーチング・マシンのシステム、TM 第 2 報、1968、p61-70
229) 岐阜大学共同研究、計測用ティーチング・マシンを用いた授業、TM 第 2 報、1968、p71-80
230) 岐阜大学共同研究、計測用ティーチング・マシンによる授業分析、TM 第 2 報、1968、p81-94

論文・文献等リスト（沖縄）（岐阜の論文を区別するため、番号は 501 から開始）

- 501) 長尾順子・他、言葉の力と考える力を育てる発問・発言と学習プリントの手引き、特定非営利活動法人日本アーカイブ協会、2015
- 502) 後藤忠彦・他、基礎資料から「授業の構成と学習指導法」を考える、岐阜女子大学文化情報研究センター、2015
- 503) 後藤忠彦・松川禮子・長尾順子・佐々木恵理、算数の思考力・判断力・表現力の基礎としての論理的思考活動を支える言語力育成、特定非営利活動法人日本アーカイブ協会、2014
- 504) 長尾順子、思考力を高める言語活動指導の手引き、沖縄カリキュラム開発研究会・言語指導に関する研究会、2014
- 505) 眞喜志悦子、「発問と応答」の手引き作成と教師の学び方の調査～McGill の仮説と学習反応のプロセスを用いて～、岐阜女子大学文化情報研究 17-1、p9-15
- 506) 宮城卓司、毎日の学習プリントの構成と沖縄での提供資料の方法について、沖縄カリキュラム開発研究 3-2、2013、p49-54
- 507) 長尾順子・佐々木恵理・興戸律子・加治工尚子・眞喜志悦子、算数の論理的な思考操作を高める言語の学習指導～学力向上のための学習活動と学習プリントの利用～、沖縄カリキュラム開発研究 3-2、2013、p55-71
- 508) 長尾順子・佐々木恵理・宮城卓司・後藤忠彦、論理的試行操作に関する言語（操作言語）の教育実践・研究計画について～思考力・表現力の育成を目的とした言語力の指導～、岐阜女子大学文化情報研究 15-2、2013、p1-7
- 509) 宮城卓司・加治工尚子・眞喜志悦子・他、思考力・表現力を高める操作言語の小学校1年～6年指導計画表の試案(1)～授業・教材の構成のための第一次指導計画表～、岐阜女子大学文化情報研究 15-2、2013、p24-31
- 510) 眞喜志悦子・長尾順子・他、【研究資料】教師用テキスト「思考力を高める言語活動指導の手引き」の作成と課題、沖縄カリキュラム開発研究 3-1、2013、p1-12
- 511) 佐々木恵理・長尾順子・齋藤陽子・他、解説書「言語活動指導の手引き Q&A 集（第1版）」作成について～児童の思考力を高めるために～、沖縄カリキュラム開発研究 3-1、2013、p13-36
- 512) 長尾順子・興戸律子・松川禮子・後藤忠彦、言語力を高めるための毎日の授業における言語活動の検討、岐阜女子大学文化情報研究 15-1、2013、p1-12
- 513) 長尾順子・興戸律子・三宅茜巳・他、論理的思考力を付ける学習指導への操作言語の研究結果の適用について～教師の言語指導力と児童の言語力の育成～、岐阜女子大学文化情報研究 15-1、2013、p27-34